

オノマトペを用いたダンス指導の有効性の検討

薮井 琴子 (岡山大学)

1. 目的

平成 24 年度のダンスの男女必修化以降、これまで繰り返し指摘されてきた、教員が抱く〈ダンス指導への不安〉の解消は喫緊の課題となっている。本研究では、指導不安の解消を目指した提案の 1 つとして、オノマトペを用いたダンス指導法に着目した。

生関ら (2018) の研究でオノマトペを用いたダンス指導の有効性を示唆したものの、その内容は極めて限定的である。他の運動領域を見ると、オノマトペを運動指導に用いた有効性が、関心・意欲・態度、運動強度、学習効率など多面的な視点から検証されている (藤野ら, 2018 ; 奥村ら, 2006 ; 吉川, 2013)。そこで、これらの研究アプローチを参考として、本研究では、関心・意欲・態度、運動強度、学習効率の 3 つの軸から多角的にオノマトペを用いたダンス指導の有効性を検討していくこととした。

2. 研究方法

- 1) 研究期間 : 2020 年 7 月~8 月
- 2) 対象者 : O 大学に所属している学生 31 名
- 3) 手続き : 【第 1 段階】①ダンス経験の有無、②ダンスへの態度 (好感度・抵抗感) の調査、そして③運動協応性テストの結果によって対象者を A・B の 2 群に分けた。【第 2 段階】LOD 理論に基づき難易度を調整した 4 種類のダンス (振付) を、オノマトペ有り/無しで実施した。実施にあたり、指導方法の順序による影響をおさえる工夫をした。

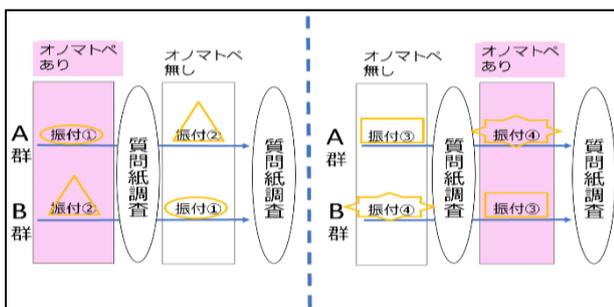


図 1 実験手順

【第 3 段階】学習後に、〈関心・意欲・態度〉〈運動強度〉〈学習効率〉の観点から計 10 項目、7 件法による質問紙調査を実施した。その後、各質問項目におけるオノマトペあり群、オノマトペ無し群の平均得点の差について対応のある t 検定を行った。

3. 結果と考察

1) 関心・意欲・態度

ダンスの楽しさ、ダンスに取り組む雰囲気、指導者の親しみやすさの項目においてオノマトペありの方が平均得点が有意に高い結果となり ($p<.05^*$)、学習者に肯定的影響を与えること明らかになった。

2) 学習効率

ダンスの覚えやすさ、指導者の声掛けの分かりやすさ、動きの見本の分かりやすさの項目においてはオノマトペありの方が平均得点が有意に高い結果となり ($p<.05^*$)、学習者に肯定的な影響を与えることが明らかになった。オノマトペの、端的な言葉で運動感覚を的確に学習者に伝え、記憶に強く働きかける機能が今回の結果が出た理由の 1 つとして考えられる。

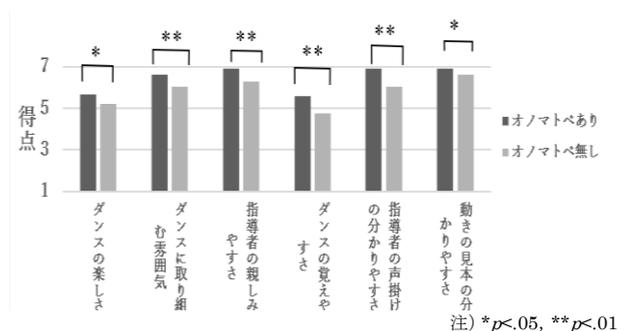


図 2 分析結果

4. 結論

ダンス指導にオノマトペを用いることで、関心・意欲・態度の 3 項目、学習効率の 3 項目において、学習者に肯定的影響を与えることが明らかになった。